

市長記者会見記録

日時：2025年2月18日（火）14時00分～14時38分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：川崎市「メルカリShops」を開設し、庁内物品をリユースします！【総務企画局・会計室】

<内容>

【議題】

《川崎市「メルカリShops」を開設し、庁内物品をリユースします！》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。まず、初めに、本日の議題は「川崎市『メルカリShops』を開設し、庁内物品をリユースします！」についてとなっております。

まず初めに、本日の記者会見に御同席いただいている方を御紹介いたします。

株式会社メルカリ経営戦略室政策企画参事、伊藤亮太様でございます。

【伊藤参事】 よろしくお願ひします。

【司会】 初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願ひします。

【市長】 よろしくお願ひします。このたび川崎市は、株式会社メルカリ様の御協力の下、「メルカリShops」を本日開設し、庁内で不要となった物品の販売を開始することになりました。ここに至るまでの経緯について御説明を申し上げます。

川崎市役所庁舎移転に当たりましては、多くの不用品が発生したことから、移転後も庁内で使用し続け、廃棄物の排出を抑制するリデュース、町内会・自治会へ譲渡・再利用するリユース、廃棄物の分別、鉄くず売却によるリサイクルの3Rの取組を推進してまいりました。

このたび、最後のリユースの取組として、メルカリShopsを開設し、その物品を販売することで、市民の皆様にも広く活用いただくことにいたしました。川崎市メルカリShopsは、事務机、更衣ロッカー、ソファなど大型什器約70点、ファイル、電話機などの消耗品約450点を出品する予定でございます。ショップの売上金につきましては、本市の貴重な財源として大切に活用させていただきます。今後、市役所内で不要となった物品全般についても本取組を広げ、循環型社会の形成につながる取組を進めてまいります。市民の皆様には、ぜひ川崎市のメルカリShopsを御利用いただき、リユースに御協力いただきますようお願い申し上げます。

私からは以上です。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、本日御同席いただきました伊藤様から御挨拶いただきます。それでは、伊藤様、よろしくお願ひいたします。

【伊藤参事】 それでは、着座のまま失礼させていただきます。株式会社メルカリの伊藤と申します。まず、本日お集まりいただいた皆様もそうですし、川崎市の職員の皆様、市長様、

皆様にお礼を差し上げたいと思います。これまでメルカリは、サービスを始めてから１１年がたちました。その中で、私たちは捨てるものをなくしたい、人々の暮らしが豊かになればいい、そんな思いでメルカリを創業したのが１１年前でございます。当時、私もメルカリにしまして、本日、川崎市様が不要になったものを捨てずに売る、そういったことをメルカリと一緒にさせてもらえるという、こんな日が来るとは思ってありませんでした。ですので、すごく感激しているところでもございます。

また、川崎市様が、捨てるものをなくして財源にしたりとか、新たに、そのものの行く先が決まっていくということ、こういったことに取り組むことが、市の皆様、市民の皆様をはじめ広く多くの人たちに届くといいなと思っていますし、そういった姿勢を川崎市様が取られるということはとても素晴らしいことだと思っておりますし、そこにメルカリと一緒に参加させていただけるというところで感謝を申し上げたいと思っております。これから川崎市、メルカリと一緒にいろんなことに取り組めればいいと思っておりますので、また今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございます。

【司会】 ありがとうございます。これより早速ですが、川崎市のメルカリＳｈｏｐｓをオープンしたいと思います。前方のモニターを御確認ください。市長が赤いバーのボタンの「ショップ情報を更新する」を押すとショップが開設となります。それでは市長、よろしいでしょうか。

【市長】 はい。

【司会】 よろしく願いいたします。

【伊藤参事】 おめでとうございます。

【司会】 ただいま、川崎市のメルカリＳｈｏｐｓがオープンいたしました。

それでは、本議題に関する質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本議題の質問が終了後、改めてお受けいたします。それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【神奈川（幹事社）】 神奈川新聞です。たまにメルカリを使ったりしていますので、なじみ深いんですけども、改めてここに「市内不要品を販売するシステムとしては政令指定都市初となります」と書いてあるんですけども、ほかは何を結局売ったりしているんですか。

【市長】 政令指定都市では不要物品は初ということなんですけれども、これまで岡山市、名古屋市は粗大ごみを販売したということでございます。

【神奈川（幹事社）】 川崎市は、ごみじゃないものを売るのが初めてという認識……。

【市長】 はい。

【神奈川（幹事社）】 改めてですが、これ、どれくらいの収益というか、メルカリさんにももちろん払うサイト利用料とかあると思うんですが、その辺りを言える範囲で教えてくださいませんか。

【市長】 全て売れたとして、３０万から４０万ぐらいの収益だと見込んでおりまして、費用がかかるというのは、手数料は初期費用や月額使用料は発生いたしません。商品が売れた

際には、販売価格の10%が手数料として発生するという仕組みになっています。

【神奈川（幹事社）】 改めて市長としては、市民の皆さんにこの商品を見て、どうしても見たいというか……。

【市長】 できれば買ってもらって、使ってもらいたいなと思っています。これまでも、できる限り庁内で使えるものは使ってきましたし、市内の自治会・町内会の皆さんにも優先的にお分けするというにしてきました。最後に残ったものもしっかりとみんなに活用してもらいたいということなので、机だとか更衣ロッカーだとかというのは、市内の事業者さんにも使っていただけるのではないかなと。ファイルなんかもありますから、ぜひ使ってもらいたいなと思っています。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。

とりあえず幹事社、こちらは。

【t v k（幹事社）】 幹事社のt v kです。ひどい声ですみません。今回メルカリShopsが開設されるということで、今回の出品は移転に関する不要品だということなんですけれども、これ1回だけで終わってしまうともったいないかなとも思うんですけれども、今後とも販売される、例えば、何かのイベントで使った不用品であったり、これから出てくる不要品なんかを継続して、このメルカリShopsを使って売られるという予定はあるのでしょうか。

【市長】 今回のものをしっかり試してみて、効果があるということであれば、いろんなものに活用していきたいなと思っています。今現時点では何か決まったということはありませんけれども、非常に効果的なツールだとは思っていますので、今メルカリの方もおっしゃっていただいたように、いろんな形で連携できるのではないかなと思っています。

【伊藤参事】 ぜひ。

【t v k（幹事社）】 幹事社からは以上です。

【朝日】 朝日新聞でございます。この中で、プレミアムがつきそうな記念的な意味のあるものってございますか。例えば、市長が使ったとか市役所の歴史を示すようなものはございますでしょうか。

【市長】 どうなんでしょうね。これなんか私、最初、なったときに使っていましたけど、これがそうか本当は分かりません。どうなんでしょうね。市長応接に置いてあったのと全く一緒だなと思って見ていたんですけど、それは違う？ よく分からない。

【総務企画局】 これはあれなんですけれども、後ろにも同じものが、今市長がおっしゃられたソファとテーブルのセットがございますので、後で御覧いただければと思っています。

【伊藤参事】 市長が座ったというプレミアがつくかもしれないので、価格設定ももう一回。

【朝日】 あと、政令市以外の一般市も含めると、中古物品のリユースでメルカリさんと組んだ自治体というのはどんなところがあるのでしょうか。

【伊藤参事】 これまで、備品に限らずということでいくと、50の自治体とやらせていた

だいております。なので、川崎市が51番目となります。ちょうど折り返しみたいな感じですけど。

【朝日】 それは粗大ごみも含めてということですか。

【伊藤参事】 そうですね。細かにもあるんですけど、どうします？ 答えますか。

【朝日】 自治体の中古物品ではどうですか。

【伊藤参事】 備品と考える、庁内備品だったり学校備品という備品というくくりではカウントしてまして、こちらですと40番目というところになります。

【朝日】 神奈川県内では先行例はありますか。

【伊藤参事】 神奈川県内では5番目です。これは、神奈川県で店舗を出したのが5番目という。お店を開設したのが5番目ということになります。

【朝日】 そうですか。その4自治体はどこですか。

【伊藤参事】 これ、後ほどでも構いませんか。

【朝日】 いいですよ。あと、もちろんこれ、全国、全世界からアプローチ可能ということですよ。購入が可能なんですよ。

【伊藤参事】 はい、そうなります。全世界といいますか、海外の特定の地域からも購入することが可能という。ほかサービスを経由してという形になりますが。

【朝日】 送料はどうなるのでしょうか。

【伊藤参事】 今回の場合ですと、恐らく川崎市で現地引取りと固定されている場合には、そこで送料は発生しないかと思うんですが。

【総務企画局】 大きめの什器の引取りについては現地の引取りになるんですけども、小さい消耗品などは発送を予定しておりまして、送料も発生はいたします。送料込みという価格設定になっております。

【朝日】 送料込みなんですか。

【総務企画局】 そうです。

【朝日】 小さな備品は。

【総務企画局】 小さい消耗品は送料が発生して、こちらで配送させていただきます。

【朝日】 これ、消費税込みの価格表示ですか。

【総務企画局】 そうですね。送料込みでこちらの価格設定となっておりまして、売れましたら、販売手数料の10%が引かれて、そこから送料を引かれてという、そこが利益となります。

【朝日】 価格設定はどなたがされたんですか。メルカリさんですか。

【総務企画局】 価格設定は、庁舎管理課で相場を見ながら、こちらで設定させていただきました。

【朝日】 中古品の相場を見ながら設定されたということでよろしいのでしょうか。

【総務企画局】 そうです。

【朝日】 ありがとうございます。

【会計室】 先ほどの神奈川県の出店している自治体なんですけれども、鎌倉市と横須賀市と葉山町と開成町になります。

【朝日】 ありがとうございます。

【東京】 東京新聞です。よろしくお願いします。メルカリ S h o p s というサービス自体は何年ぐらいからやっていらっしゃるというか、自治体の第 1 号は何年ぐらいだったんでしょうか。

【伊藤参事】 メルカリ S h o p s が始まったのが 2021 年 10 月 17 日となります。自治体が初めて出店、出品を始めたのが同じ年、2021 年の 11 月となっております。こちら、始めた自治体もっておっしゃいましたかね。岩手県の山田町という自治体が第 1 号として始めてくださいました。

【東京】 ありがとうございます。素朴な疑問なんですけど、庁舎移転開始からもう 1 年以上たっていて、最後の移転から半年以上たっている今になってメルカリ S h o p s を始めるって遅くない？という感覚もあるんですけど、今後 4 庁の活用なんかも始まってくと思うんですけど、今 4 庁にあるのかなと思うんですが、ある程度たっても売れなかつたら廃棄という形になっていくのか、何でこの時期にようやく開設になったのかと、どのぐらいで見切りをつけるような形になるのか教えていただけますか。

【総務企画局】 最後の移転が令和 6 年 7 月になりまして、そこから、まずは庁内で転用できないかということで、出先機関などにも、こちらを転用させていただきました。その後に、市内の町内会・自治会に譲渡させていただきましたので、それが終わりましたのが今年の 11 月になります。そこからメルカリ S h o p s さんとの調整が入りまして、このたび開設に至りました。メルカリ、今回出品した物品につきまして、このまま売れずに残ってしまった場合というのは、行く行くは廃棄になる可能性もあるんですけども、また、庁内のほうでもそういった活用ができれば活用もできますし、具体的にいつになったら廃棄するとか、そこら辺はまだ決めてはおりません。

【東京】 あと、資料の 4 番に、販売予定物品で大型什器 70 点、小型のもの 450 点とあるんですけども、この計 520 点がもう今日の段階で売りに出されたということでよいんでしょうか。

【総務企画局】 大型什器につきましては本日の段階で出されているんですけども、消耗品につきましては、一部、ファイルなどですと、入れる入れ物の大きさと中身のファイルの種類が、組合せの調整がございまして、まだ調整中のものもございますけれども、それなるべく早く出品できるように今準備をしているところでございます。

【東京】 今日の段階で出品されているもの、何点ぐらいになるんでしょうか。

【総務企画局】 大型什器の 70 点は既に出しておりまして、あと消耗品も、この記者会見の場となりますと、まだ一部という形になるんですけども、この後、すぐに順番に出していくという形になります。

【東京】 入れ物というのは梱包材みたいなイメージですか。

【総務企画局】　そうですね。段ボールの大きさということになります。

【東京】　ありがとうございます。

【読売】　読売新聞と申します。３点ほどお伺いできればと思います。

まず１点目は、不用品のオークションですとか、ほかにサイトとかもあると思うんですけども、メルカリ S h o p s を選ばれた理由についてお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】　私からでよろしいですか。数あるフリマサイトの中から、大手フリマサイト３社で検討させていただきましたけれども、メルカリ以外の２社については、地方公共団体の出店に対応していなかったということでございまして、メルカリ様にお願いしたということでございます。

【読売】　ありがとうございます。それから、伊藤様にもう一回確認させていただきたいんですけども、備品の販売をしている自治体が４０番目というところだったんですけども、市内不要物品を販売する出店としては初ということ、ほかの３９自治体は、市内の不要物品ではなくて、どういった備品を販売されているのでしょうか。

【市長】　政令市ということで、いわゆる庁舎で使っていた備品を販売するのは政令市の中では初めてということになります。

【読売】　ありがとうございます。そうしたら、ほかの、政令市じゃないところでは市内の不要物品を販売している自治体があるということですね。

【伊藤参事】　はい、そのとおりでございます。

【読売】　ありがとうございます。

あと最後、もう１点だけなんですけれども、収益を財源として生かしていきたいというところだったんですけども、具体的に、例えば子育てに生かしたいですとか、イメージがあれば。もし特になければ、市政全般と捉えてよろしければ、そのように市長にお伺いできればと思うんですが。

【市長】　基本的には特定せずということになります。

【読売】　ありがとうございます。

【司会】　以上でよろしいでしょうか。

【朝日】　朝日新聞でございます。メルカリさんの前は、通常、廃棄物として販売はしていて、その値段はついていたんですか。

【会計室】　車両ですとか、そういったものの入札による売払いですとか、あと鉄くずという形で入札による売払いはしておりましたが、それ以外、売払いに適さないものについては廃棄処分という形を取っておりました。

【朝日】　分かりました。ありがとうございます。

【司会】　以上、よろしいでしょうか。

それでは、これより写真撮影の時間とさせていただきます。準備をいたしますので、しばらくお時間をいただければと思います。福田市長と伊藤様は、モニターを挟んで前方のほうにお願いいたします。それでは、写真撮影の時間とさせていただきます。報道機関の皆様、

撮影のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(写真撮影)

【司会】 どうもありがとうございました。では、写真撮影を終了いたします。ありがとうございました。なお、出品予定の什器につきましては、一部を会計室の後方に提示しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

では、伊藤様にはここで御退席をいただきます。ありがとうございます。

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきましては、改めて幹事社様、よろしくお願いいたします。

【市政一般】

《川崎フロンターレについて》

【神奈川（幹事社）】 幹事社、神奈川新聞です。まず、明るい話題からというところで、いよいよＪリーグが開幕しまして、市長も見に行かれたと思うんですけど、フロンターレが新体制となって、いい門出を、ロケットスタートじゃないですけど、わくわくさせられたと思うんですけど、その辺はいかがだったでしょうか。

【市長】 先週の韓国でのＡＣＬＥも４対０、ホーム開幕戦でも４対０ということで快勝したというのは、幸先のいいスタートが切れているのはものすごくうれしいですね。本当に１０１年目からのスタートを新生フロンターレで、また勢いよく出ていっていただいているのはとても勇気づけられますし、うれしいニュースです。

【神奈川（幹事社）】 市長的に個人的に今年推していきたい選手とかいるんですか。

【市長】 選手というよりか、長谷部監督の新しい風にまた期待したいと思っています。

《教育委員会の事務処理ミスについて》

【神奈川（幹事社）】 改めてですがけれども、先週、川崎市教委で、学校の授業こま不足の問題が起きましたけれども、改めて市長、その辺りの問題意識と今後の対応について。特に学校の先生、授業を４５分で運用しながら時間をつくったりして、何とか子供たちをよくしようとした上でのちょっとした手続というか、その辺のミスだったと思うんですけども、その辺を含めまして、市長のお考えを教えてください。

【市長】 僕も、どうしてこういうことが起こるんだろうという話を教育長なんかにも聞きましたら、なるべく余裕を持って時間を配分しているんだけど、授業の短い、長いというのを弾力的に運用していくという授業工夫の中で、そういうものが生まれてしまったということで、ある意味不注意なんですけれども、いろんな形で実態に合わせてやっていたものがちょっと足りなかったというのは非常に残念ですけれども、現場でいろんな工夫をされているということの一つの表れだろうと思っています。ただ、これ、ルールですので、しっかり気をつけていただきたいなとは思っております。

【神奈川（幹事社）】 すぐに取り入れることは難しいと思うんですけども、簡単に分かりやすく一元化するようなシステムを入れるとか、そういう考えというのは何かありますか。

【市長】 言い方が難しいんですけど、それほど複雑な話ではないと思っていて、本当にちょっと不注意だったなという感じですので、そこは普通にちゃんとやってもらうということだと思います。

【神奈川（幹事社）】 もう一つ、同じ日に、公益通報した人の資料が、テーブルの上とか職員の机の中にしまわれていたというようなことも併せて発表されたんですけども、そこら辺はいかがですか。

【市長】 やはり個人情報の取扱いについては、昨年もいろんな事案が発生しておりました。そういう意味では、昨年に引き続いて、やはり気を引き締めていかなくちやいけないというのは、庁内もそうですし、しっかり注意喚起を日々の業務の中で意識を高めていかなければならないと思っております。

【神奈川（幹事社）】 特に今、公益通報制度の部分では全国的にも話題となっております、外部に流出ももちろんなんですけど、内部の人にも見られたくないというような情報だと思ってしまうんですけども、その辺も大事だと思うんですけども。

【市長】 そうですね。ですから、個人情報に対する意識というのは、何回も何回も繰り返し講習なり研修なりを受けていますので、その意識をさらにしっかり上げていくことが大事だとは思っております。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。

《黄金色ナマズ「たまずん」について》

【t v k（幹事社）】 幹事社のt v kです。弊社でも放送しました黄金ナマズの「たまずん」についてお伺いしようかと思うんですが、特になければいけないで結構なんです。亡くなってしましまして、特に思い出等がなければあれなんです、ちょっと所感なんかをお伺いできればなど。

【市長】 せせらぎ館で展示されていて、子供たちも非常にかわいがっていた「たまずん」だと思いますので、寿命ということですから、みんな温かく、感謝の気持ちを持って送りたいなと思っています。

《幼稚園の送迎バスの契約打ち切りについて》

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。毎日幼稚園児が訪れて歌を歌っていたとか、私、それを初めて自分のところのニュースで知ったんですけども、幼稚園のお話でもう1個、幼稚園バス運転手派遣ということで、深刻な運転手不足によって急遽、来月いっぱい契約を打ち切りという、みつばモビリティから川崎区の幼稚園なんかでも20年のお付き合いがあった中で、そういう事態が発生したと。4月からの話なので、早急に準備、対応しないといけないと思うんですけど、これは市で何か対策が取れるようなことがあるのか、もしそういうのがあれば教えてください。

【市長】 10園と契約をしていたということでありまして、そのうちの9園は同じ運転手さんを園が直接雇用するといった方法で、同業他社を紹介して契約してもらうという形で対応ができていたということでもあります。残る1園についても、おおむね同様の対応を取れ

るということで、とりあえずは10園、4月から園バスが来ないということはなくなるということですが、一般的に、おっしゃったように運転手不足は非常に深刻な問題なので、民バス、市バスのみならず、こういったところにも大きな影響が出てきているということは、現状をものすごく端的に表している事象だと思いますが、こういったことが、なるべく事前に情報を察知して対応ができるように、私たちもサポートできることがあればやっていきたいと思っております。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

《南武線のワンマン運転の実施等について》

【東京】 東京新聞です。南武線のワンマン化があと1か月ほどで始まるのかと思うんですが、12月議会などでも発車メロディーの存続について話題になっていて、局長が存続の可能性について引き続きJRと調整していくという話もありましたけれども、最近、もう1か月切ったところで、「Jupiter」はとか、「ドラえもん」はとか、「フロンターレ」はとか、「丘を越えて」はって、各駅それぞれ利用者の方が親しんできた音楽がなくなるといって、大分寂しさを感じていらっしゃる利用者の方が多いように感じるんですが、今、市とJRの間でどういう話がなされているのかということと、なくなるのであれば、市長の受け止めをお聞かせいただけたらと思っております。

【市長】 現在、どういう細かな調整をしているのかは私存じませんが、基本的には厳しいということをお聞かしております。ただ、これまでもJRさん、非常に御好意でこういった取組をやっていただけてきたこと自体にまずは感謝申し上げたいと思いますし、シビックプライドというか、愛着のある駅というものに工夫をしてくださっていましたが、サービスは終了するにしても、違った形で川崎としてもやれることがないかというのは別の形で考えていくべきなんじゃないかなとは思っております。駅にこだわらずということだと思いますけれども。

【東京】 ありがとうございます。

《子育て支援について》

【NHK】 NHKです。先日の予算のときの会見で本当はお伺いできればよかったんですが、各自治体が出そろったのがちょうどこのぐらいになってしまったので振り返りになってしまうんですが、教えていただければと思います。子育て支援施策に関して、都内では、都政レベルだけではなくて、23区の区政レベルでも、修学旅行の実質無償化であるとか、あるいは中高生のいる世帯での現金給付だとか、非常にパワフルな施策、予算づけというところが並んでいました。そうしたところ、限られた予算の中で市としても工夫されていらっしゃると思うんですが、一方で、こうした状況を、中には「多摩川格差」と呼ぶ方もいると思います。そうした差が生じている要因についてのお考えですとか、あるいは、こうした現状への受け止め、さらにはこうした状況を踏まえて、市としてのスタンス、市長としての方向性というところを教えてくださいたいと思います。

【市長】 原因とすれば、もう一言で財源です。財源の格差そのものということだと思いますが、それが今、子育て施策を中心に、無料合戦みたいなことが続いているということに非常に危惧を持っております。市民から見ると、多摩川1本渡っただけでどうしてこんなに違うのかということは、やはり自治体の仕組みだとか、財政、税制の仕組みは、普通の生活をしていて考えることはないと思うんですよね。そのことをしっかりと私たちもお伝えしていかなければなりませんし、常に言っていることですけれども、こういったナショナルミニマムをどうするのかということの、特に子育て、というものは国の中でしっかり議論してもらわないといけないと思っています。特に今国会での議論は大いに期待したいと思っています。東京都とそれ以外というのは異常な状況になっていることに現場としては非常に危機感を持っていますし、市民に非常にねじ曲がった形で伝わっているのではないかなというのを危惧しております。

【NHK】 ありがとうございます。そうしたことを踏まえて、市としてのスタンスというか、こうした子育て支援に取り組む姿勢みたいなところを、例えば限られた予算の中で工夫しながら取り組まれているんだとか、その辺りのお考えがあったら教えてください。

【市長】 川崎市の子育て支援というのは、とにかくシームレスにということをやってきましたので、きめ細かいものを切れ目なくということをやってまいりました。今回も病児保育を増やしたりとか、あるいは、これは川崎市の特徴だと思いますけれども、保育・子育て総合支援センターという形で、地域密着型で子育てをしっかりとサポートしていくというような切れ目のない支援をこれからも充実させていきたいと思っております。

【NHK】 ありがとうございます。

《南武線のワンマン運転の実施等について》

【朝日】 朝日新聞でございます。先ほどの南武線に関連してなんですけれども、高架化工事に伴って快適性は増すと思うんですけれども、現状、6両編成以上の増結ができない状況になっていて、混雑が激しくなる一方なので、ホームの近くに踏切があって、どうしても増結できないという部分はあると思うんですけれども、高架化に伴って、一部ホームの長さも自由に設計できる可能性もあるのかと思いますので、今後、JRとの間で車両増結について、市から協力を要請するとか、そういうお考えはございますでしょうか。

【市長】 スタンスとすれば、輸送力増強の話はこれまでもずっとやってきたことでありますので、その可能性は常に探っていきたいと思います。

【朝日】 ありがとうございました。

【司会】 御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当